

第 2 章

伊丹市におけるスポーツの現状と課題

1. 伊丹市の人口と高齢化率・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2. 伊丹市におけるスポーツの現状・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) ハード部門：施設など・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) ソフトウェア部門：クラブ、プログラム、イベント、情報・・・・ 6
 - (3) ヒューマン部門：指導者、ボランティア等・・・・・・・・・・・・ 8
 - (4) 各種スポーツ団体・学校体育連盟におけるスポーツ推進事業・・・・ 9
3. 伊丹市におけるスポーツ実施の特徴・・・・・・・・・・・・ 10
4. 伊丹市におけるスポーツ推進の課題・・・・・・・・・・・・ 11

第2章 伊丹市におけるスポーツの現状と課題

本市においては、市民がいつでも・どこでも気軽に運動やスポーツに親しむことができるよう「生涯スポーツ社会の実現」を目指して、平成 20（2008）年度から平成 29（2017）年度を計画期間とする「新伊丹市生涯スポーツ振興基本計画」、平成 30（2018）年度から令和 9（2027）年度を計画期間とする「伊丹市スポーツ推進計画」によりスポーツに係る政策を展開してきました。

この度、「伊丹市スポーツ推進計画」の中間見直しを実施するにあたり、改めて本市および国・県の各種統計等調査結果から現状を分析し、本市のスポーツ行政に係る課題抽出を行いました。

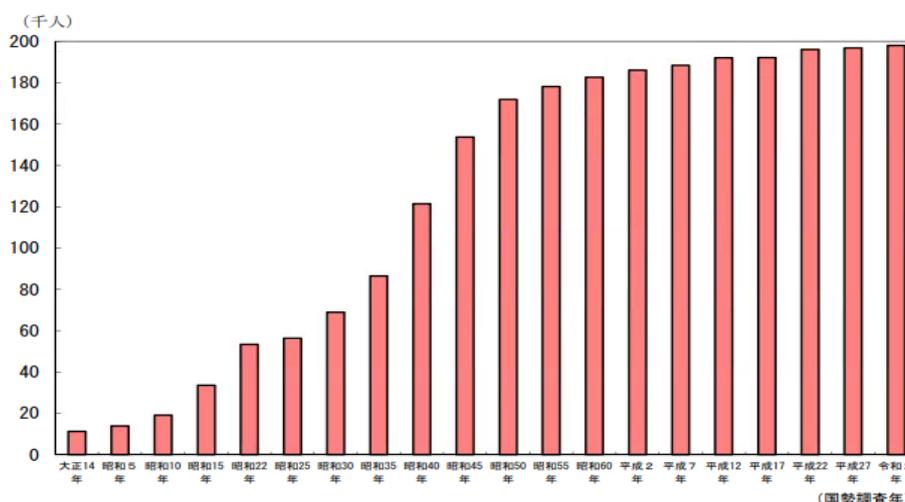
1. 伊丹市の人口と高齢化率

本市の人口は昭和 25（1950）年から昭和 50（1975）年にかけて急増し、その後も少しずつ増加し、日本の総人口が減少に転じた平成 20（2008）年以降も、人口が緩やかに増加しており、県内でも数少ない人口増加都市となっています。

令和 2（2020）年（10 月）の人口は 198,138 人と、前回の平成 27 年国勢調査（196,883 人）と比べ、1,255 人の増加となっております。

また、本市でも 65 歳以上の高齢者人口は増加を続け、平成 17（2005）年以降老年人口が年少人口を上回っています。本市でも高齢化の進展と老年人口を今後支えていく世代の人口減少が進みつつあるといえます。令和 2（2020）年（10 月）の本市の高齢化率は 26.0%で、全国の 28.7%を下回っている状況です。

伊丹市の人口推移



2. 伊丹市におけるスポーツの現状

伊丹市におけるスポーツの現状について、これまで数次にわたり開催してきました伊丹市スポーツ推進審議会における委員からのご意見や市民アンケート結果に基づき、それぞれ次のとおり整理しました。

(1) ハード部門：施設など

【現状】

	項 目	内 容
1	スポーツ施設の整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・伊丹スポーツセンターの各施設は老朽化が進んでいるが、体育館のみ大規模な耐震改修工事を実施済み。 ・スポーツセンター及び緑ヶ丘体育館は、空調設備がなく、夏季の利用が厳しい。 ・ローラースケート場は老朽化が進んでいる。
2	プールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・緑ヶ丘プールは老朽化が進み、給水管漏水が懸念される。営業は夏季の2ヶ月間のみ。利用者数は減少している。 ・市立プールは市内で4ヶ所ある。
3	スポーツ施設の利用状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの施設も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度から令和3年度において一時、施設の利用停止および制限を行ったため、利用者数は減少している。 ・市立野球場や体育館の利用率は高く、利用の予約が取りにくい。 ・稲野公園の変形自転車は子どもたちに人気で、同公園内の運動広場はグラウンドゴルフを楽しむ利用者が多く見られる。
4	スポーツ施設の管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンター、緑ヶ丘体育館・プールや野球場、猪名川運動広場などは、指定管理者により管理・運営されている。 ・猪名川テニスコートや山田テニスコート、荒牧運動広場などは、利用者を中心とした運営委員会により、管理・運営されている。

5	ウォーキングコースについて	・瑞ヶ池、昆陽池周辺は、ジョギングやウォーキングのコースとして多くの市民に親しまれている。
6	スポーツ施設におけるバリアフリー、ユニバーサルデザイン対応について	・スポーツセンター等一部施設においてはバリアフリー対応へ改修されているが、市内公共スポーツ施設全体的にみて、ユニバーサルデザイン化が十分でない。
7	障がい者スポーツについて	・市立障害者福祉センター（アイ愛センター）は、本市における障がい者スポーツの中核施設で、インクルーシブな形態を含め、様々な障がい者スポーツ事業に取り組んでいる。



緑ヶ丘プール

(2) ソフトウェア部門：クラブ、プログラム、イベント、情報

【現状】

	項 目	内 容
1	スポーツ教室事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターでは、テニス、スイミング、卓球、親子体操等、多様なスポーツ教室を開催している。 ・緑ヶ丘体育館では、バスケットボール、新体操、レディースフットサル、チアリーディング等、多様なスポーツ教室を開催している。 ・きららホールやラスタホール、ローラースケート場でも、各種スポーツ教室を開催している。

2	スポーツ関連イベントの開催について	<ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ振興課は「市民スポーツ祭」「市民駅伝競走大会」等、こども若者企画課は「みんなで遊ぼう広場教室」、健康政策課は「健康フェア」等のイベントを開催している。市民スポーツ祭は参加者が減少傾向にある。 ・毎年スポーツの日の恒例行事として「スポーツの日のつどい」を市内各スポーツ施設で開催している。開会式においては、市スポーツ協会加盟団体やスポーツクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウトなど、さまざまな団体が参加し、約3,000人規模で実施している。 ・稲野公園では子どもを対象にした変形自転車体験会、アイ愛センターでは障がい者を対象のイベントやインクルーシブな大会等を実施している。
3	スポーツクラブについて	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブ21の会員数は、令和3年度で5,252名と減少傾向（平成28年度6,145名）にある。「いたっボール」や「5×5ビンゴ」など、「伊丹ならでは」の多世代で楽しめるスポーツも各クラブで実施されている。
4	スポーツ関連情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のスポーツ関連情報の周知については、広報紙やSNS、チラシ、各種掲示板が活用されている。 ・市のHPには、市主催・共催事業やイベント、各施設へのリンク等最低限の情報掲載がある。一部の種目協会等団体でウェブサイトを開設済のところもあるが、全体的にみて各団体のウェブサイトの開設は充分ではない。
5	スポーツ施設の予約について	<ul style="list-style-type: none"> ・予約システムは、緑ヶ丘体育館を含め、1時間単位で予約が取れるなどの改善が行われたが、一部施設の予約はシステム化、一元化は行っていない。

6	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レディーススポーツの実施者は、種目によっては減少しているものもあるが、全体的には盛んで様々な年代の方々がいる。 ・小学校では「運動を好きな子どもを増やそう」の方針の下、サーキットトレーニングなどの運動プログラムが実施されている。市内小、中学生の新体カテストの結果は、全国平均や兵庫県平均を上回っている。全国でもユニークな体カテストによる「スポーツバッジ認定制度」を導入し、子どもたちへの動機づけを高めている。
---	-----	--

(3) ヒューマン部門：指導者、ボランティア等

【現状】

	項 目	内 容
1	スポーツ指導者について	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動において外部指導者として市内8中学校で、20名が活動しているが、中には卒業生や保護者等によるボランティアで支えられているところもある。専門的な技術や指導力のある外部指導者が求められている。また、中学校部活動の地域移行に伴い、今後更に多くの指導者の養成・確保が必要となる。 ・市スポーツ協会は、地域のニーズに応じて、専門指導者の派遣を行っており、幼稚園・小学校への市内企業陸上部の指導者派遣が好評である。 ・障がい者のスポーツ教室における講師は外部委託している。障がい者スポーツ指導員の養成と活用は充分ではない。
2	スポーツ推進委員について	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員は34名で、そのうち17名が女性である。市の各種スポーツ行事等の運営だけでなく、まちづくり出前講座での指導者としても派遣している。

3	スポーツ指導者の高齢化について	・スポーツ推進委員や市スポーツ協会をはじめ、スポーツ指導者も市全体的に高齢化傾向にある。
4	スポーツボランティアについて	・地域のスポーツ活動を指導者等として支えているボランティアは多いが、スポーツイベント等でスタッフとして支える「スポーツボランティア」の養成は不十分である。



スポーツ推進委員の活動

(4) 各種スポーツ団体・学校体育連盟におけるスポーツ推進事業

これまで、下記の市内スポーツ団体を中心に市民のスポーツ活動を推進してきました。各団体がそれぞれの目的達成のために様々なスポーツ関連活動を展開することで、本市のスポーツの普及と発展に寄与しています。

【市内のスポーツ団体等の現状】

主な活動対象	団体名	取り組み内容等
地域スポーツ全般	伊丹市スポーツ推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進事業の実施に係る連絡調整 ・地域住民に対するスポーツの実技指導 ・その他スポーツクラブの運営に関する指導及び助言

<p>競技スポーツ 全般</p>	<p>伊丹市スポーツ協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・傘下 30 協会、約 1.2 万人の会員が所属。 ・少年スポーツ指導者連絡協議会・武道連絡協議会を組織し市民スポーツ祭等の大会を開催 ・伊丹市スポーツ振興協議会を組織し、スポーツの日のつどいを実施
<p>学校体育</p>	<p>伊丹市中学校体育連盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術指導が十分でない部活動を対象に外部指導者を活用し技術指導支援を実施
<p>女性</p>	<p>伊丹レディース スポーツ連絡協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民対象の健康スポーツ広場の実施（令和3年度40回実施延べ475名参加） ・各種目別のレディーススポーツ大会や各種教室の開催 ・市主催イベントへの参加、教室の開催
<p>障がい者</p>	<p>伊丹市障害者スポーツ協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツ体験事業、普及・啓発活動、団体活動支援、各種大会への参加促進 ・アイ愛センター事業との連携協力

3. 伊丹市におけるスポーツ実施の特徴

伊丹市におけるスポーツ実施の特徴について、市民アンケート実施結果に基づき、それぞれ次のとおり整理しました。

- 1) 週1日以上、運動・スポーツを定期的実施している成人は、47.6%であり、前回49.1%より1.5%の減となっている。女性(46.1%)より男性(49.9%)の実施率が高い。
- 2) 週3日以上、運動・スポーツを定期的実施している成人は、22.9%であり、前回23.7%より0.8%の減となっている。女性(21.2%)より男性(25.5%)の実施率が高い。
- 3) 週1日以上のスポーツ実施率は、年代別では70歳代(58.0%)が1位で、続いて80歳代以上(55.9%)、60歳代(55.4%)の順となっており、30歳代(33.8%)が最も低い。
- 4) 1年間に全くスポーツを実施しなかった未実施率は30.1%で、前回24.1%より6%の増となっている。全国平均の19.9%より多い。
- 5) スポーツのクラブ、同好会等への加入割合は16.3%と低く、加入しているクラブは、1位民間のフィットネスクラブなど(43.4%)、2位地域のクラブ(32.1%)、3位職場のクラブ(21.9%)の順である。
- 6) 実施されている種目は、1位散歩、ウォーキング、2位体操(ラジオ体操等)、3位ジョギング、ランニング、4位サイクリング、5位ゴルフの順である。男女とも1位は散歩、ウォーキングで、男性ではジョギング、ランニング、ゴルフが多く、女性では体操、太極拳・ヨガの人気が高い。
- 7) 今後、実施したい種目は、1位散歩、ウォーキング、2位水泳、3位体操(ラジオ体操等)、4位太極拳、ヨガ、5位テニス、ソフトテニスの順である。
- 8) 市のスポーツ施設に希望するのは、1位「スポーツ施設の充実」、2位「自然と触れ合うことができる施設整備」、3位「自転車専用レーン・サイクリングロードの整備」、4位「空き地の開放」と続いている。



ジョギングを楽しむ市民

4. 伊丹市におけるスポーツ推進の課題

前述の伊丹市の運動・スポーツを取り巻く現状から、これからスポーツを推進していく上での主な課題を、次のように整理しました。

- 公共スポーツ施設の老朽化が顕著であり、中期的な施設整備計画が求められている。
- ウォーキングやジョギングコース、自転車専用レーン、自然と触れ合える施設など、身近で手軽な施設の整備が求められている。
- 障がい者のためのバリアフリー化やユニバーサルデザインの施設整備が求められている。
- 中学校部活動の地域移行に伴い、指導者の確保をはじめ、受け皿となる地域の組織体制づくりなど、環境整備に取り組む必要があり、行政、学校や地域、保護者、スポーツクラブ21や各スポーツ団体、事業者などの連携・協働が求められる。
- スポーツ行政やスポーツ団体等において、縦割りによる効率性・効果・経済性の問題が顕在化しており、一元化が求められる。
- 子どもの体力は全国平均を上回っており、学校における体育・スポーツ活動が一定評価されるが、東京オリパラ2020における若者向けの競技の新種目採用を受け、子どもや若者などを対象にした新たな施設環境整備が求められる。
- ターゲットグループとして、女性、壮年、高齢者、障がい者、ファミリーに対するハード部門とソフト部門の開発・整備が求められる。
- 専門知識や経験を有する、質の高い専門指導者の養成・活用が求められる。
- スポーツクラブ21の充実、生涯スポーツの推進だけでなく、地域の活性化にもつながるため、より活発で持続可能なクラブ運営を目指すことが求められる。

○スポーツ実施率を高め、目標値を達成するためには、誰もが気軽にまた、
継続してスポーツ活動ができる環境の提供が求められる。



ニュースポーツイベント（ペタンク）



幼児体操教室（伊丹スポーツセンター）

第3章

推進計画の目標と 基本的考え方

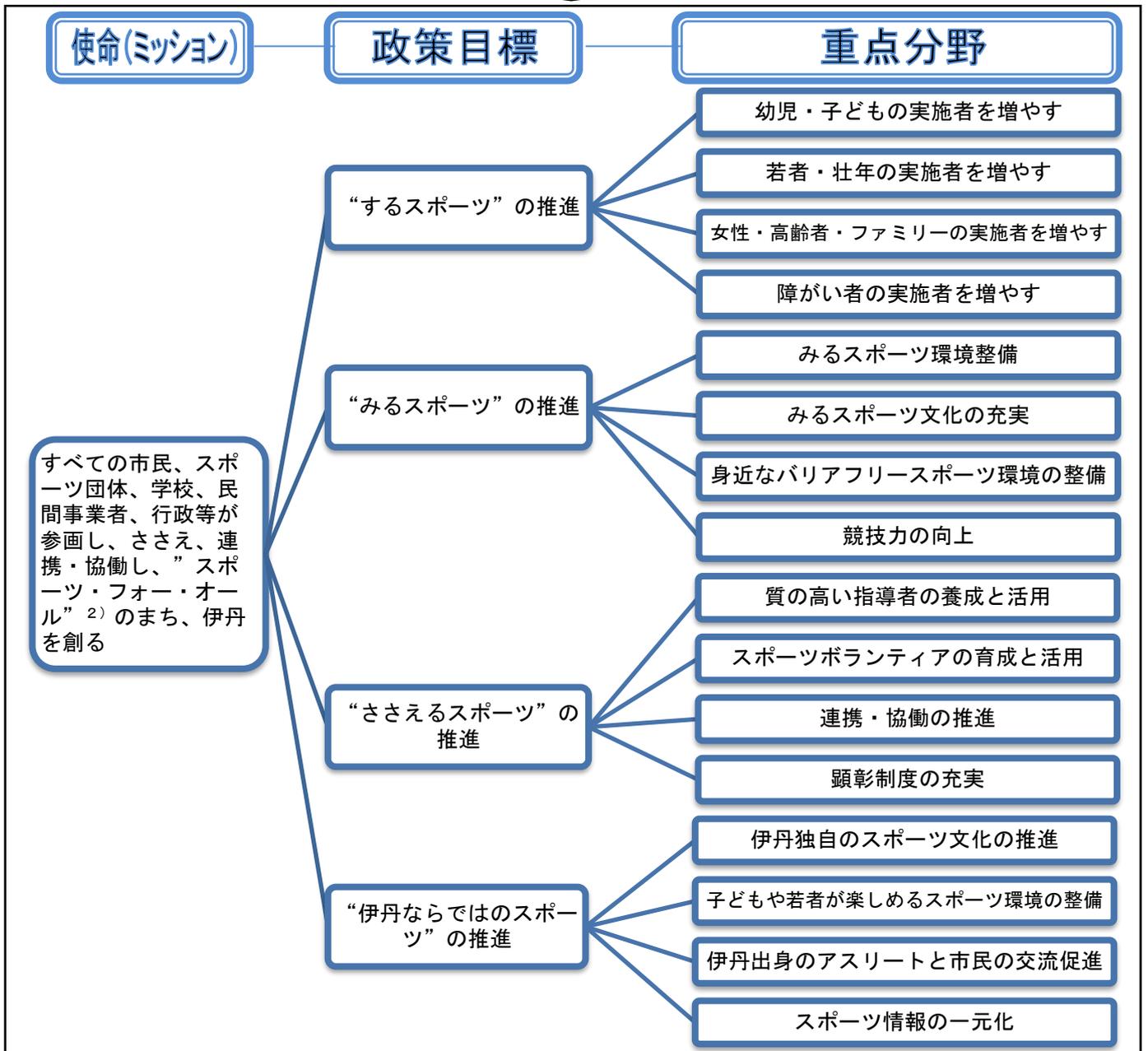
1. 基本理念（ビジョン）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2. 使命（ミッション）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
3. 政策目標と重点分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
4. 数値目標（本計画終了年度まで）・・・・・・・・・・ 16

第3章 推進計画の目標と基本的考え方

伊丹市スポーツ推進計画の体系

基本理念(ヴィジョン)

「“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ”、“伊丹ならではのスポーツ”を推進し、すべての市民がアクティブライフ¹⁾を楽しむことができる環境を創る」



1. 基本理念（ヴィジョン）

私達が生涯にわたってスポーツに親しむことは、心身の健康の保持・増進や明るく豊かで活力に満ちた社会を形成するために非常に重要なことです。

少子高齢化の進展、生活の利便性向上などを背景にスポーツに対するニーズは多様化しています。その中で全ての市民が元気で活動的、健康的な生活習慣を送ることで、健康寿命の増進、生活の質を向上させるため、

「“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ” “伊丹ならではのスポーツ” を推進し、すべての市民がアクティブライフを楽しむことができる環境を創る」

を本計画の基本理念（ヴィジョン）とし、市民スポーツを推進します。

2. 使命（ミッション）

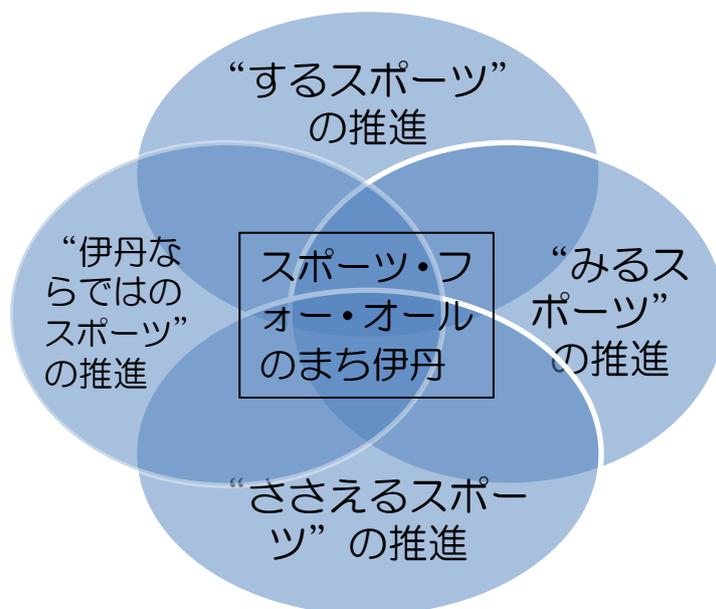
スポーツを通して人と人がつながり合い、交流が活発になるには、子ども・高齢者・障がい者・成人・男女などにとらわれず誰もが参加し、本市の強みである市民力を活かし、連携し支えあうことが必要となると考え、本計画において、基本理念（ヴィジョン）の下に“すべての市民、スポーツ団体、学校、民間事業者、行政等が参画し、連携・協働し、支えあい、” スポーツ・フォー・オール” のまち、伊丹を創る “という使命（ミッション）を掲げました。その使命を果たすために、様々な施策を展開します。

3. 政策目標と重点分野

上記使命（ミッション）を果たすため、“するスポーツの推進”、“みるスポーツの推進”、“ささえるスポーツの推進”、“伊丹ならではのスポーツの推進” の4つの政策目標を定めました。

◇ “するスポーツの推進” においては、スポーツの価値の中核は、スポーツをすることの「楽しさ」や「喜び」であるという考えの下、その価値を様々な世代、立場の方々が享受できるよう、幼児・子ども、若者・壮年、女性・高齢者・ファミリー、障がい者の実施者を増やす取り組みを重点的に行います。

- ◇ “みるスポーツの推進” においては、スポーツを「みる」ことは、人に勇気や感動を与えてくれたり、日々の生活を豊かに過ごすきっかけになるという考えの下、みるスポーツ環境整備、みるスポーツ文化の充実、身近なバリアフリースポーツ環境の整備、競技力の向上に重点を置いた取組みを行います。
- ◇ “ささえるスポーツの推進” においては、スポーツボランティアなどに参加し、スポーツ実施者やスポーツを観る人を支えることで、仲間と感動を分かち合う機会が新たに生まれたり、“するスポーツ” や “みるスポーツ” を効果的に推進していくことにもつながることから、質の高い指導者の養成と活用、スポーツボランティアの育成と活用、連携・協働の推進、顕彰制度の充実に重点的に取り組めます。
- ◇ “伊丹ならではのスポーツの推進” においては、伊丹発祥のスポーツ又は伊丹にゆかりのあるスポーツの普及、啓発は地域の一体感や活力の向上、地域コミュニティづくりに資するもので、地域の連携や協働の好循環を創出することにもつながることから、伊丹独自のスポーツ文化の推進、子どもや若者が楽しめるスポーツ環境の整備、伊丹出身のアスリートと市民の交流促進、スポーツ情報の一元化に重点的に取り組めます。



伊丹市スポーツ推進計画モデル図

4. 数値目標（本計画終了年度まで）

本計画でめざす目標値はそれぞれ次のとおりです

項 目	平成 28 年度	令和 4 年度	目標値
週 1 日以上スポーツを行っている市民※1 の割合	49.1%	47.6%	65.0% (2027 年度)
週 3 日以上スポーツを行っている市民の割合	23.7%	22.9%	33.0% (2027 年度)
1 年間で全くスポーツを行わない市民の割合	24.1%	30.1%	15.0% (2027 年度)
各種スポーツクラブ、同好会等に入入している市民の割合	18.4%	16.3%	28.0% (2027 年度)

※1「市民」は、18歳以上の伊丹市在住者を指す。

※令和4年度の市民アンケート結果より、新型コロナウイルス感染拡大がスポーツの実施率に負の影響をもたらしていることが示されたこと、及び国の第3期スポーツ基本計画において、週1回以上スポーツをする成人の割合「スポーツ実施率」の目標を、第2期計画から5ポイント引き上げて70%に設定したこと等から、本市における目標値の設定の再検討を行いました。目標値との乖離状況や前章の「伊丹市におけるスポーツの現状と課題」を踏まえ、目標値は据え置きとし、引き続き達成に向け取り組んでまいります。



市立ローラースケート場



スポーツクラブ21交流 5×5（ゴーゴー）ビンゴ大会



こどもヨット教室（瑞ヶ池公園）